

PHILIPS

Healthcare



第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 ランチョンセミナー10

日時：2021年11月13日(土) 11:30～12:20

会場：F会場 JRホテルクレメント高松 3F「玉藻(西)」

〒760-0011 香川県高松市浜ノ町1-1

在宅呼吸療法患者の災害対策 ～新たな取り組み～

座長：尾崎 孝平 先生 (医療法人社団顕鐘会 神戸百年記念病院 麻酔集中治療部／尾崎塾)

演者：笠井 健 先生 (北良株式会社)

本セミナーはハイブリッド方式(現地会場+オンライン)にて開催いたします。
学術集会の参加登録方法は、学術集会のHPをご確認ください。

会場参加方法：整理券配布はありません。直接会場にお越しいただき、先着順にご入場いただきます。

共催：第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会／株式会社フィリップス・ジャパン

第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会

日時：2021年11月13日（土）11:30～12:20 会場：F会場 JRホテルクレメント高松 3F「玉藻（西）」

在宅呼吸療法患者の災害対策 ～新たな取り組み～

笠井 健 北良株式会社

当社は岩手県において医療用ガスの供給や在宅医療サービスを提供している事業者である。2011年には東日本大震災を経験し、医療機関や在宅患者の支援を行った。その後、熊本地震や西日本豪雨、各地の台風災害などで被災地の支援に参加し、その経験を活かして多様な災害対策に取り組んでいる。

在宅医療患者にとって災害時の最も大きな課題とされているのが電源の維持である。在宅医療では、人工呼吸器や酸素濃縮器をはじめ多数の医療機器が使用されており、一般的に在宅用人工呼吸器は停電時も専用のバッテリーによる動作が可能だが、その稼働時間は限られており、加温加湿器などバッテリーがついていない機器も多い。

東日本大震災などの大規模災害では支援する側も人員や燃料の確保などで車両の走行が制限されることもあり、迅速で効率的な支援をするためには、個々の患者について停電状況を早期に把握し、優先順位を明確にした対応を行う必要があった。また、被災した範囲が広く、患者の避難先を把握するのが困難であった経験から患者の位置情報を確認するニーズが発生した。

こうした経験から2014年に患者個別の停電状況と避難先を把握するシステム「ANPY」を開発し、原則として全ての患者に設置している。このシステムは小型の専用端末を患者宅のコンセントに接続し、停電を感知した際には支援する側に通知することで、ほぼリアルタイムに患者毎の停電を正確に把握することができ、幾つかの災害で詳細な停電情報を把握することで正確な初動対応が可能になるなど成果をあげている。また、端末にはGPSが内蔵されており、避難の際に持ち出すことで、位置情報が一定間隔でシステム上に記録され、避難先を把握するための情報として活用される。2019年からは(株)フィリップス・ジャパンにもシステムを提供しており全国の在宅患者の災害対策強化を協力して推進している。

